

**[成果情報名] クリ「筑波」における二次伸長枝を利用した着穂数向上技術**

[要約] クリ「筑波」の二次伸長枝から翌年発生する結果枝にも雌花が着生する。特に基部径 0.7cm 以上の太さの二次伸長枝を利用することにより、結果母枝当たりの着穂数を増加させることができる。

[キーワード] クリ、筑波、二次伸長枝

[担当] 宮崎県総合農業試験場・果樹部

[代表連絡先] 電話 0985-73-7099

[分類] 研究成果情報

**[背景・ねらい]**

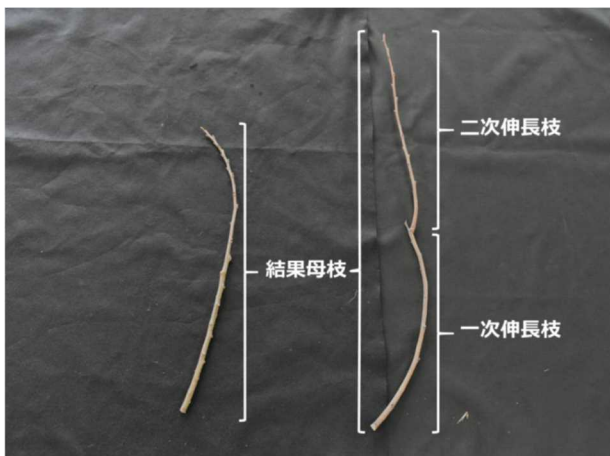
近年、温暖化の影響による秋季高温が原因と考えられる、夏季の一次伸長枝が秋季に発芽する二次伸長の現象がみられる。当県では二次伸長した結果母枝は剪定の際に切除の対象としていたが、その着果特性については不明である。そこで、二次伸長枝から翌年発生する結果枝の雌花数や着穂数を調査し、利用の可否を明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. 結果母枝長は二次伸長した結果母枝の方が長い（表1）。
2. 二次伸長枝から翌年発生する結果枝にも雌花が着生する。また、合計雌花数は二次伸長した結果母枝の方が多い（表2）。
3. 結果母枝当たりの着穂数は二次伸長した結果母枝で多い（表3）。
4. 基部径 0.7cm 以上の二次伸長枝に多く着穂する（図2）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 二次伸長した「筑波」の樹は樹高が高くなるので、防除をより適切に行う。



参考 一次伸長のみの結果母枝(左)と二次伸長のみられた結果母枝(右)

[具体的データ]

表1 二次伸長したクリ「筑波」の枝長及び基部径

処理区	一次伸長枝		二次伸長枝		合計		
	枝長(cm)	基部径(mm)	枝長(cm)	基部径(mm)	枝長(cm)		
2013	二次伸長区	32.4	9.6	20.4	5.3	52.8	-
	対照区	32.4	8.3	-	-	32.4	-
2017	二次伸長区	59.3	11.0	30.3	6.4	89.6	†
	対照区	71.8	10.6	-	-	71.8	-
2018	二次伸長区	50.7	12.0	31.3	6.0	82.0	**
	対照区	60.1	10.0	-	-	60.1	-

2013年は各区15本、2017年及び2018年は各区30本を調査

t検定により\*\*は1%、\*は5%、†は10%で有意差あり

表2 二次伸長したクリ「筑波」の雌花着生数

処理区	一次伸長枝		二次伸長枝		合計				
	雌花着生結果枝数(本)	雌花数(個)	雌花着生結果枝数(本)	雌花数(個)	雌花着生結果枝数(本)	雌花数(個)			
2013	二次伸長区	2.7	4.7	2.5	3.9	5.2	-	8.6	-
	対照区	3.3	4.5	-	-	3.3	-	4.5	-
2017	二次伸長区	-	-	-	-	7.4	*	8.8	n.s.
	対照区	-	-	-	-	4.7	-	6.4	-
2018	二次伸長区	5.0	6.8	4.9	8.6	9.9	**	15.4	**
	対照区	4.4	5.5	-	-	4.4	-	5.5	-

2013年は各区15本、2017年及び2018年は各区30本を調査

2017年の二次伸長区は合計数のみ調査した

t検定により\*\*は1%、\*は5%、†は10%で有意差あり。n.s.は有意差なし

表3 二次伸長したクリ「筑波」の着穂数、果実数及びその果実重(2018年)

処理区	一次伸長枝			二次伸長枝			合計	
	着穂数	1穂当たりの健全果実数(個)	1穂当たりの健全果実重(g)	着穂数	1穂当たりの健全果実数(個)	1穂当たりの健全果実重(g)	着穂数	
二次伸長区	4.7	1.0	25.7	6.6	1.1	25.7	11.3	**
対照区	3.9	1.0	28.2	-	-	-	3.9	-

各区15本を調査し、1穂あたりの果実重は健全な果実から算出

Steel-Dwass 検定により\*\*は1%で有意差あり

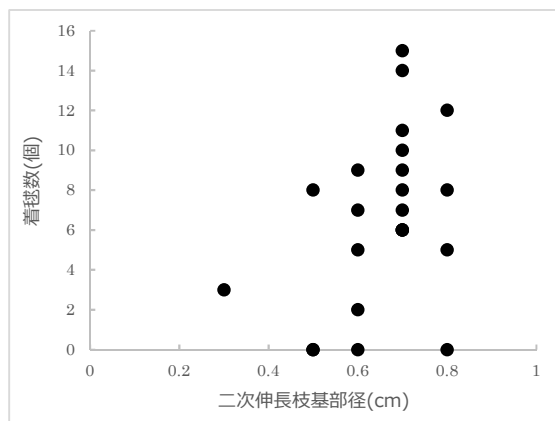


図1 クリ「筑波」における二次伸長枝の基部径と着穂数(2018年)

(宮崎県総合農業試験場)

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2013～2018年度

研究担当者：城戸皓大、栗野太貴、佐藤吉史、山口秀一、金丸俊徳

発表論文等：城戸ら(2019)園芸学会九州支部研究収録第27号